

# 茶病虫害防除情報

令和8年3月10日

## 【第 3 号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

### 一・二番茶の減収・品質低下をもたらす

## 越冬後春ダニの防除対策

本県の冬季における気象状況は、上旬と下旬に冬型の気圧配置が強まり寒暖差が大きい時期があり月平均気温はやや低めに推移しました。さらに降水量はかなり少なく、晴天が多かったため日照時間は長くなりました。

今後の気象予報では気温は平年よりも高い予報となっています。しかしこれからも三寒四温の寒暖の変化で春に向かうと思われます。茶園では一番茶への期待を込め整枝作業なども進んでいますが、これからは晩霜対策などにも十分な注意が必要です。

春に発生し、一・二番茶に被害をもたらす重要害虫カンザワハダニなどの発生状況と防除対策についてお知らせします。

### ★ ハダニの発生のしかた

カンザワハダニは主に春に発生し、一番茶の摘採期頃に多くなり、一番茶の減収や品質低下などの被害をもたらします。一般に雨が少なく、乾燥した温かい天候が続くと急増します。越冬期の気象は、10月後半～11月前半の気温（17.5℃以上で、休眠率が低下）および1月の平均気温（7.6℃以上で、産卵数増加）が高いと多発要因といわれます。また、一般に3～4月の気温、天候が発生に関与し、気温が高く、晴天乾燥気候が続くと発生が多くなります。

冬の間は、日当たりの良い茶畦南側の裾葉で朱色をした雌成虫（写真）で越冬します。しかし、温かい南九州などでは真冬でも年によっては休眠せず、少しずつ増殖しますので卵や幼虫がみられることがあります。一般的には平均気温が8～10℃以上になる2月下旬頃から雌成虫は休眠から醒め、体色も濃赤色に変わり、本格的に産卵を始め、増殖します。

### ★ 今年の発生状況と予測 発生予測 多

県病虫害防除所の調査結果では、春の発生や越冬密度に影響する昨年秋の発生ほ場率は平年よりもやや多いの状況でした。本年2月の調査で発生ほ場率は56%（平年34%）、寄生葉率3.3%（平年1.5%）で越冬密度を示す寄生葉率は平年より多いようです。3月の発生予察情報は、発生ほ場率と寄生葉率が平年に比べて多かったことから、「多発生」と予測しています。

### ★ 防除対策

越冬後の春期ダニ防除は、多発する恐れのある一二番茶の被害を未然に防ぐ上で欠かせません。確実に行いましょう。

**春ダニの防除は増殖が進んでからは手遅れ・・・先ず自分で越冬ハダニを調べ・・・防除対策**

裾葉 100～200 葉採取観察	寄生葉率5%以上かどうか	薬剤防除
	10 葉当たり 1 頭以上（成・幼虫）いるか	
	幼虫・卵が増え始めているかどうか	

基本的防除は平均気温が 10℃を超える頃（3月上旬）にダニゲッターフロアブル、ハロックフロアブルなどを散布します。今年概ね平年どおりの散布でよいでしょう。

しかし、増殖がかなりすすんで発生が多い園ではダニサラハフロアブルを散布します。

## ★ 越冬後ハダニ防除のポイント

- ① この時期の防除は増殖開始期であり、長い効果の持続が要求されるため殺卵・殺幼虫効果が高く、残効性の長い薬剤の使用が望ましい。（ダニゲッター・ハロック）
- ② 多発生してからの防除効果は低下するので、発生初期防除に努める。
- ③ 天敵類（カブリダニ類など）に影響の少ない薬剤を選ぶ。
- ④ 殺成虫効果主体で速効性の薬剤は一番茶摘採期頃に発生が増加するので避ける。
- ⑤ 十分な散布量で、この時期寄生の多い裾部や葉裏によくかかる散布法で防除効果を高める。展着剤の加用はダニおよび葉裏への薬液の付着が高まり、効果が安定する。

## ★ 有機栽培園のダニ類防除法

防除時期	防除薬剤	使用濃度	使用基準	留意事項
3月初中旬	スプレーオイル（マシン油）	50～100倍	10～3月	マシン油は萌芽の遅延や茶に油膜を生じることがあるので注意する。 チャトコソゾラミ同時防除も可能。 効果緩慢なため複数回散布を要す。
	ハーベストオイル（マシン油）	50～150倍	発芽前又は摘採直後	
	トモノールS（マシン油）	50～150倍	10～3月	
	サンクリスタル乳剤	300～600倍	摘採前日まで	
萌芽～一番茶後	ミルベノック乳剤	1000倍	7日前 1回	速効的であるが、天敵に影響がある。

## ★ 春期のダニ類などの薬剤防除法

発生の状況	防除時期	主な防除薬剤	使用濃度	使用基準
通常発生の場合 （基幹防除）	2月下～3月上旬	ダニゲッターフロアブル	2000倍	7日前 1回
		ハロックフロアブル	1000～3000倍	14日前 1回
多発生の場合 （発生が早い場合） （補完防除）	3月中～下旬	ダニサラハフロアブル	1000～2000倍	7日前 2回
		ダニコングフロアブル	2000～4000倍	7日前 1回
		スターマイトフロアブル	2000倍	7日前 1回
一番茶期まで発生が続く場合 （補完防除）	3月下～4月上旬 （一番茶芽生育初期）	ダニサラハフロアブル	1000～2000倍	7日前 2回
		ダニコングフロアブル	2000～4000倍	7日前 1回
		スターマイトフロアブル	2000倍	7日前 1回
一番茶摘採後 （補完防除）	4月下～5月上旬	アグリメック	1000倍	7日前 1回
		ダニサラハフロアブル	1000～2000倍	7日前 2回
		ダニコングフロアブル	2000～4000倍	7日前 1回
ハダニ・サビダニ類 併発生の場合	3月上旬	ダニゲッターフロアブル	2000倍	7日前 1回
一番茶後サビダニ類 多発生の場合 （補完防除）	4月～5月上旬	アグリメック	1000倍	7日前 1回
		サンマイトフロアブル	1000倍	14日前 2回
		スターマイトプラスフロアブル	1000倍	14日前 1回

注 太字剤は栽培暦採用薬剤

★ カンザワハダニ 発生状況



成葉の被害

新芽の被害

雌成虫と卵  
(産卵増加期から防除)



成虫 幼若虫 幼虫

休眠雌成虫 (朱色)  
(産卵しない)

ハダニ捕食中の  
ケガカブリダニ